

科目名(英文表記)	<p style="text-align: center;">アカウンティングⅣ（国際会計）  （Accounting Ⅳ）</p>		
科目区分	発展科目	単位数	2 単位
担当教員名	松本 康一郎（非常勤講師）	ナンバリング	MBA_E_AC 6341
研究室番号	なし	研究室電話番号	なし
Eメール・アドレス	matumoto@hokusei.ac.jp		
<b>授業の内容及び方法: 次頁以降に記載</b>			
<p><b>授業の目的:</b></p> <p>今日の企業会計基準においてグローバル・スタンダードとしての地位を確立している「国際財務報告基準（IFRS）」について、各国・各地域の会計基準との共通化と、各国・各地域におけるIFRSの適用に関するこれまでの展開を理解する。</p> <p>さらに、IFRSそれ自体がどのような経緯と仕組みにおいて策定されてきたのかを理解するとともに、IFRSが日本の企業会計制度や企業経営に与える影響を検討します。</p>			
<p><b>使用教材:</b></p> <p>◇テキスト：小樽商科大学ビジネススクール編『MBAのための財務会計 三訂版』同文館出版。</p> <p>◇サブテキスト：あずさ監査法人編『すらすら図解 新・IFRSのしくみ』中央経済社。</p> <p>◇講義用ハンドアウト：manabaを通じて、講義ノート・講義資料を随時配付します。</p>			
<p><b>成績評価の方法:</b></p> <p>下記の評価項目を総合して評価する。</p> <p>◇出席・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10%</p> <p>◇授業への参加度（報告，討論等）・・・・・・・・・・ 25%</p> <p>◇ホームワーク（事前・事後課題の提出）・・・ 25%</p> <p>◇確認テスト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40%</p> <p>評価に不服のある場合には、不服申立書を教務委員長に申し出ること。</p>			
<p><b>履修上の注意事項:</b></p> <p>「アカウンティングⅠ」（基本科目）および「アカウンティングⅡ」（基礎科目）を履修していることが望ましい。</p>			

## 授業の内容及び方法

<b>モジュール1</b>		国際会計の領域とグローバル・スタンダードの必要性
<b>事前準備</b>	◇テキスト第12章に基づいて、グローバル・スタンダードとしての会計基準が何故必要なのかについて、レポートを作成してください。	
<b>第1時限</b>	事前課題のプレゼンテーション	
◇事前課題のプレゼンテーションと議論。 ◇会計の国際化と金融の国際化との関係を理解する。		
<b>第2時限</b>	IFRSの概要	
◇IFRSの策定過程とこれまでの概要を理解する。		
<b>復習</b>	◇第2時限で取り上げた「IFRSの概要」について、現在のIFRSとその前身であるIAS（国際会計基準）について、それらの策定過程における相違を復習しておいてください。	

<b>モジュール2</b>		IFRSの基本的特徴と米国の対応
<b>事前準備</b>	◇科目サイトに松本が事前配付した講義ノートにもとづいて、IFRSの基本的特徴が日本の企業会計に及ぼす影響を考察し、レポートを作成してください。	
<b>第3時限</b>	IFRSの基本的特徴	
◇M2 事前課題に関するプレゼンテーションと議論。 ◇IFRS全体の基本的特徴が企業会計に及ぼす影響を理解する。		
<b>第4時限</b>	IFRSに対する米国の対応	
◇米国の企業会計制度において、IFRSが何故適用されるに至らなかったのかを理解する。		
<b>復習</b>	◇第4時限の授業内容とテキスト第13章の記述との関係を確認しておいてください。	

<b>モジュール3</b>		<第5時限>IFRSに対する日本の対応 <第6時限>会計基準の差異と企業経営
<b>事前準備</b>	日本の上場会社のうち200社近くが連結決算においてIFRSを適用している理由を考察し、レポートを作成しておいてください。	
<b>第5時限</b>	IFRSに対する日本の対応	
◇M3事前課題に関するプレゼンテーションと議論。 ◇日本基準とIFRSとの共通化からIFRSの適用へと至る対応の変化を理解する。		
<b>第6時限</b>	会計基準の差異と企業経営	
◇IFRSを任意適用している日本企業の連結財務諸表に基づいて、IFRSの各基準と日本基準との差異を理解する。		
<b>復習</b>	第6時限の授業内容とテキスト第13章の記述との関係を確認しておいてください。	

<b>モジュール4</b>		連結財務諸表の概要と分析
<b>事前準備</b>	科目サイトに松本が事前配付した連結精算表について、その計算過程に関する受講生各自の疑問点を、レポートとして作成しておいてください	
<b>第7時限</b>	連結財務諸表の概要	
◇連結決算の概要と精算表の必要性を理解する。 ◇IFRSに基づく連結財務諸表と日本基準に基づく連結財務諸表との相違を理解する。		
<b>第8時限</b>	連結財務諸表分析	
◇個別財務諸表分析と連結財務諸表分析の差異を理解する。 ◇連結財務諸表分析における留意点を理解する。		
<b>復習</b>	◇各受講生が選んだ日本企業に関する連結財務諸表分析レポートを作成し提出して下さい。	

<b>モジュール5</b>		IFRSと日本基準との比較（退職給付会計について）
<b>事前準備</b>	◇テキスト該当頁の通読。 ◇科目サイトに松本が配付した退職給付会計に関するミニケースの解答を事前課題として提出してください。	
<b>第9時限</b>	退職給付会計の概要	
◇退職給付会計の概要を理解する。 ◇日本基準とIFRSとの相違点を確認する。		
<b>第10時限</b>	退職給付会計の実践	
◇ミニケースに基づいて退職給付会計を理解する。 ◇退職給付会計が企業会計に及ぼす影響を理解する。		
<b>復習</b>	◇退職給付会計の適用に関する特徴と問題点について，整理しておいてください。	

<b>モジュール6</b>		IFRSと日本基準との比較（減損会計，収益の認識基準について）
<b>事前準備</b>	◇テキスト該当頁の通読。 ◇科目サイトに松本が配付した減損会計に関するミニケースの解答を事前課題として提出してください。	
<b>第11時限</b>	減損会計の概要	
◇減損会計の概要を理解する。 ◇IFRSとの相違点を確認する。		
<b>第12時限</b>	収益の認識基準	
◇IFRSに基づく収益の認識基準を理解する。 ◇従来の実現基準との相違点を理解する。		
<b>復習</b>	◇第11・12時限における論点を整理しておいてください。	

<b>モジュール7</b>		IFRSと日本基準との比較（収益の認識と測定，引当金の計上，結合会計について）
<b>事前準備</b>	◇テキスト該当頁の通読。 ◇科目サイトに松本が配付した収益の認識・測定と結合会計に関するミニケースの解答を事前課題として提出してください。	
<b>第13時限</b>	収益の認識と測定，引当金の計上基準	
◇IFRSに基づいた場合の収益の認識と測定について，ミニケースを通じて理解する。 ◇引当金の計上範囲について，日本基準とIFRSとの相違を理解する。		
<b>第14時限</b>	企業結合会計	
◇企業の各種再編方法と結合会計との関係について理解する。		
<b>復習</b>	◇第13・14時限における論点を整理しておいてください。	

<b>モジュール8</b>		確認テスト
<b>事前準備</b>	本科目に関する論点整理	
<b>第15時限</b>	確認テストの実施	
◇第14時限までの授業に関する論点整理が各自できているかどうかを確認するための「確認テスト」の実施。		
<b>復習</b>	◇確認テストにて不十分な解答箇所について，修正点を各自で確認整理しておいてください。	